

創刊に寄せて

野村資本市場研究所 取締役社長 兼
野村サステナビリティ研究センター 理事長

飯山 俊康

近年、気候変動リスクをはじめとする環境・社会・ガバナンス（ESG）や持続可能な開発目標（SDGs）に関わる問題への関心が国際的に高まっています。そうした中、金融・資本市場にはサステナビリティに関わる課題解決への貢献が益々求められています。

このような問題意識の下、野村資本市場研究所は、2019年12月に「野村サステナビリティ研究センター」を設立しました。本センターは、野村資本市場研究所の中立性・専門性・実践性を基本方針とする研究に立脚しながら、金融・資本市場と密接なサステナビリティ関連テーマの組織的・戦略的な抽出・モニタリングを行い、良質な情報発信や各種提言をはじめとする活動に取り組んでまいります。そしてこの度、野村サステナビリティ研究センターの活動の一環として、季刊誌『野村サステナビリティクォーターリー』を創刊しました。

『野村サステナビリティクォーターリー』では、野村サステナビリティ研究センターの研究者によるレポートを掲載し、例えば、国内外のサステナブルファイナンス関連の金融商品開発、市場整備や金融規制・監督の動き、発行体・投資家等金融市場参加者による各種取り組みなどについて広く発信したいと考えています。また、サステナブルファイナンスの潮流を幅広く捉えるべく、国内外の有識者による記事も掲載してまいります。

2020年に入って深刻化した新型コロナウイルス感染症問題を契機にして、サステナブルファイナンスの軸足が、従来の環境を中心とする内容から、社会（ソーシャル）に関わる分野への広がりを見せはじめており、金融商品開発や開示の見直し等への動きにつながっています。野村サステナビリティ研究センターでは、このような最新情報も踏まえた研究にも取り組み発信してまいります。

『野村サステナビリティクォーターリー』が、グローバルな金融市場で次々と生まれているサステナブルファイナンスに関する論点について、市場関係者の皆様の知見に貢献できることになれば、これに勝る喜びはありません。